

1 背景

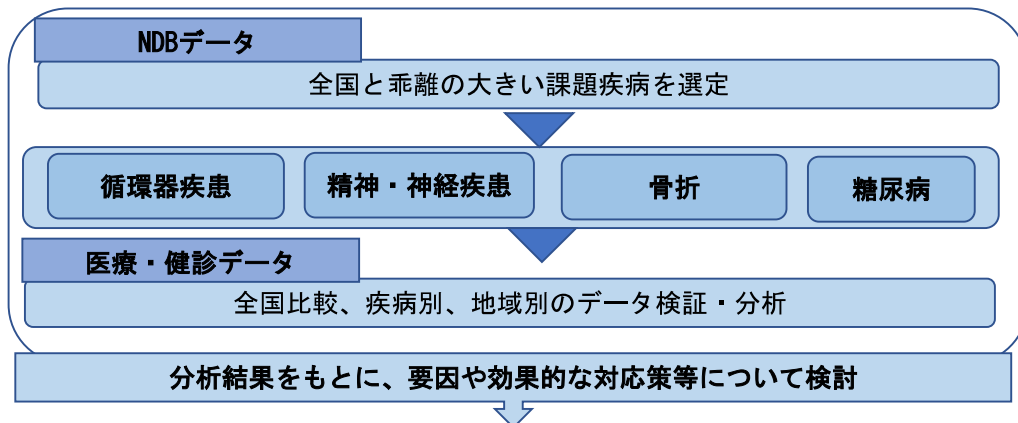
- ◎ 健康寿命は、男性71.75歳（全国8位）、女性74.40歳（全国25位）。平均寿命と男性10歳、女性13歳の差がある。
- ◎ 熊本地震、新型コロナウイルス感染症、令和2年7月豪雨災害のトリプルパンチの中、生活習慣の変化による健康状態悪化の懸念。
- ◎ 本県の一人当たり医療費（H30）は、全国9位（約39万円）と高い。（総医療費7,019億円）

健診・レセプトデータ等の分析により、本県の健康課題を可視化 → 地域の実態に即した効果的な事業の実施に繋げる必要がある。

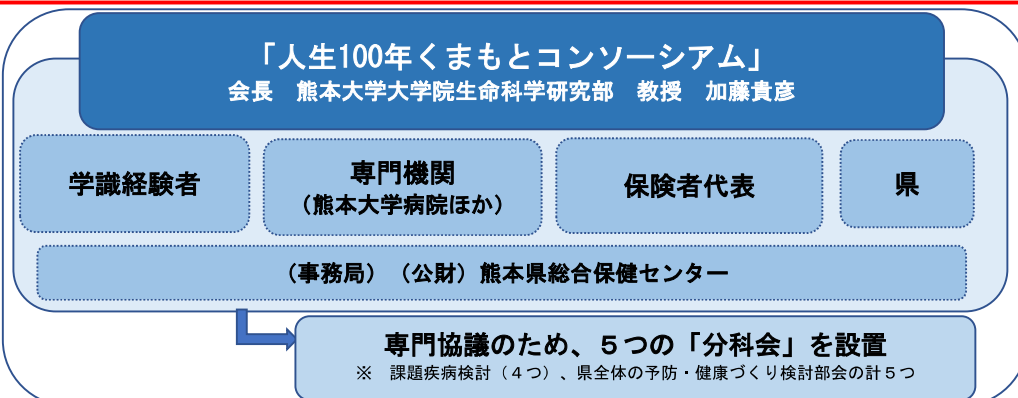
予防・健康づくりの推進
医療費適正化

2 今年度の新たな取組み

① 保険者間の横断的な医療・健診等データ分析

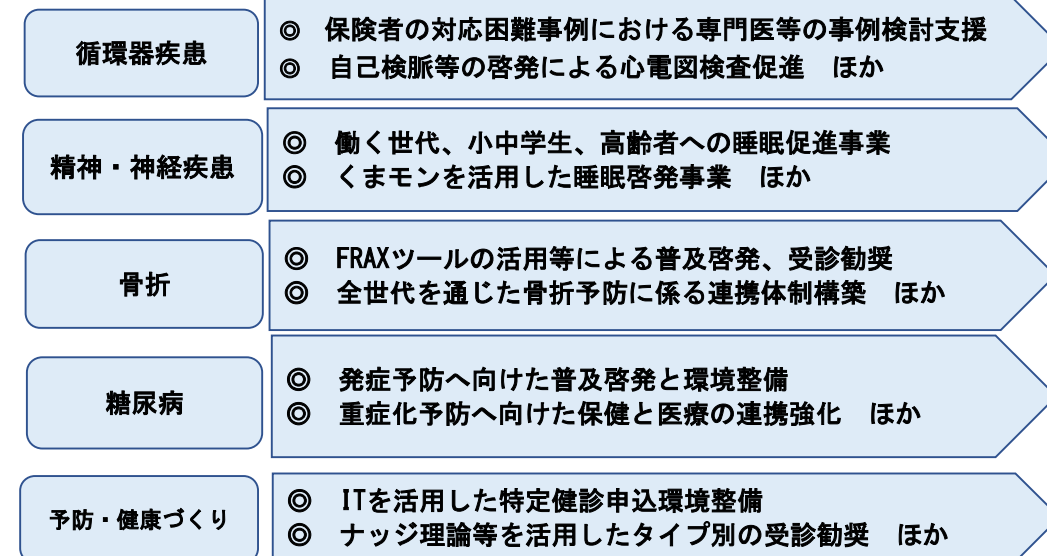


② 有識者等による「オール熊本」での検討の場を設立

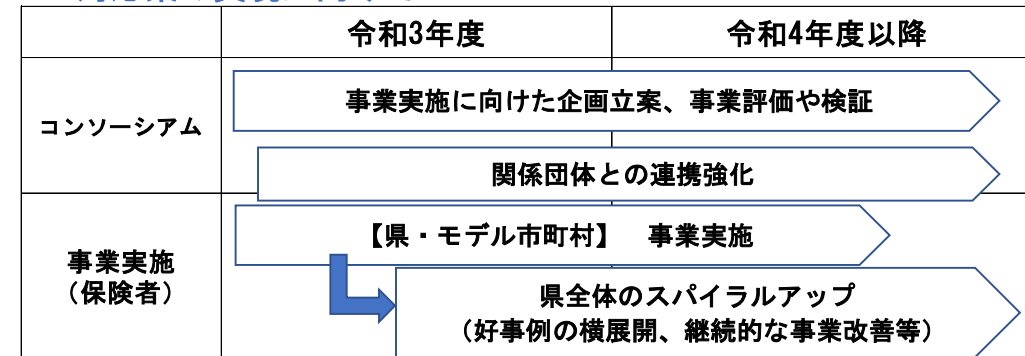


令和3年（2021年）3月、本県の健康課題や対応策の提言の報告

3 コンソーシアムからの提言の概要（対応策の提案）



4 対応策の実現に向けて



県全体の予防・健康づくりの機運向上

令和2年度「人生100年くまもとコンソーシアム」の検討結果概要版

1 課題疾病に係る検討						
課題疾病	一人当たり医療費 (単位:円)	千人当たり患者数	疾病別医療費 (単位:百万円)	本県の医療費の特徴	コンソーシアムでの検討・分析から見た重点課題	重点課題への対応策案
	(全国順位)	(全国順位)	(県全体医療費に占める割合)			
NDBデータ(2017年度).e-stat(人口統計2017年)を用いて算定				(※ 詳細は各分科会のまとめ等を参照)		
循環器疾患	医療費・患者数ともに全国上位			<ul style="list-style-type: none"> ◎ 循環器疾患の一人当たりの医療費は、全国平均の約1.34倍、患者数は、1.34倍と高い。全国と比較して特に<u>高血圧性疾患、その他の心疾患(心房細動等)、脳梗塞</u>の医療費が高い。 ◎ 市町村国保・後期の疾病別医療費は、<u>脳梗塞、その他の心疾患、心不全、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症等)</u>の順に高い。 ◎ 高額レセプト(1件380万円以上)の68%が循環器疾患であり、そのうち、急性大動脈解離が30% 	<ul style="list-style-type: none"> ① 有効な受診勧奨や保健指導のために、保険者の実態を把握し、保険者毎の課題、事例、対応策を個別に検討し、<u>専門医等の意見を取り入れることが効果的である</u>と考えられるが、専門医等が支援する体制が整っていない。 ② 脳梗塞や大動脈解離等の医療費が高い疾患を予防するためには、<u>高血圧や心房細動の早期発見が必要であるが、心電図検査の実施は、市町村国保で67%と低く、心房細動の所見割合が1.3%。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 発症予防、重症化・再発予防の対策を行うとともに、保険者への支援に取り組む。 ① 保険者の対応困難事例における専門医等の事例検討支援 ② 自己検脈等の啓発による心電図検査促進
	65,493 (6位)	236人 (8位)	115,310 (18.0%)			
	41,894 (3位)	103人 (6位)	73,760 (11.5%)			
	13,965 (4位)	26人 (5位)	24,587 (3.8%)			
精神神経疾患				<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「精神・神経疾患」の医療費及び患者数ともに全国順位が高い。 ○ 躁うつ病を含む「気分障害」の医療費 全国1位 ○ 睡眠障害を含む「その他の精神及び行動の障害」の医療費全国1位 	<ul style="list-style-type: none"> ① 睡眠による休養が十分にとれていない人の割合が高く、近年、対前年比が高いレベルで推移。「睡眠障害」のある20~64歳の働く世代は、「気分障害」となる可能性が高い。 ② 熊本地震や豪雨災害に加え、新型コロナウイルス感染症が重なり、睡眠障害のリスクが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「睡眠障害」は「気分障害」への移行因子。「睡眠障害」への対応が、「気分障害」の予防に繋がる。 ① 働く世代、小中学生、高齢者への睡眠促進事業 <ul style="list-style-type: none"> (1) 睡眠と休養に関する意識調査の実施 (2) 保健指導モデルの構築 (3) 健康教育(予防教室)の実施 ② くまモンを活用した睡眠啓発事業
骨折				<ul style="list-style-type: none"> ◎ 一人当たり医療費は、全国平均の約1.6倍、患者数は約1.46倍と高い。<u>このうち、特に75歳~79歳の女性の患者数は、全国の2.4倍。</u> ◎ 入院医療費に占める「骨折」の割合は、後期高齢者1位(約10%)、市町村国保3位(約4%)と大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>骨粗鬆症検診受診率が低い、骨粗鬆症治療率が低いほか、骨量強化に必要な栄養素の摂取不足、運動不足など生活習慣に課題がある。</u> ② 若い世代から骨折予防に着目した保健事業に取り組んでいる市町村は少なく、<u>全ライフステージを通して取り組むための環境が整備されていない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 全世代を通じ、それぞれのステージに応じた骨折・骨粗鬆症予防の取組を推進していく。 ① FRAXツール(骨折リスク評価ツール)の活用等による普及啓発、受診勧奨 ② 全世代を通じた骨折予防に係る連携体制の構築
糖尿病				<ul style="list-style-type: none"> ◎ 一人当たり医療費は、全国平均の1.4倍と高い。 ◎ 人工透析につながる糖尿病性腎症の患者数は年々増加、また、脳血管疾患や虚血性心疾患、網膜症を併せ持つ人も年々増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 40~50代のHbA1c5.6%以上の人が増加、20歳からの体重増加の割合が全国より高く、若い世代からの生活習慣に課題がある。 ② 人工透析等の重度合併症の回避が重要課題であり、<u>そのためにも要医療判定者を確実に医療につなぐことや、治療中断者やコントロール不良者を減らすべく、切れ目のない保健医療体制の構築が課題である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 発症予防と重症化予防の取組を推進していく。 ① 発症予防へ向けた普及啓発と環境整備 <ul style="list-style-type: none"> (1) オール熊本体制による若い世代へのアプローチ (2) 自然に健康になれるような環境整備(健康無関心層も健康づくりに取り組みやすい環境整備) ② 重症化予防へ向けた保健と医療の連携強化 連絡会議の場を通じた情報発信による保険者と医療機関の連携強化の推進

2 疾病予防に向けた総合的な取組み			
県全体の予防・健康づくり (重点課題「特定健診受診率向上」)	(現状)	(重点課題)	(対応策案)
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 特定健診受診率は51.1%と低く(全国平均54.7%)、特に市町村国保の特定健診受診率が低い。保険者毎で特定健診受診率向上のための取り組みを実施しているが、課題やターゲット層も様々である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の早期発見・早期治療のためにも、特定健診受診率の向上が必要。 ① 特に、40~50歳代の受診率が低い。 ② 全体への画一的な受診勧奨では行動変容に繋がりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ITを活用した特定健診申込環境整備 ② ナッジ理論等を活用したタイプ別の受診勧奨 ほか

(組織図)

※令和3年3月19日時点

「人生100年くまもとコンソーシアム」 (会長 熊本大学大学院公衆衛生学講座 教授 加藤 貴彦)

	分科会 「循環器疾患」	分科会 「精神・神経疾患」	分科会 「骨折」	分科会 「糖尿病」	分科会 「予防・健康づくり」
【コンソーシアム構成員】					
分科会 会長	熊本保健科学大学 保健科学部 教授 川口 辰哉 委員	熊本大学大学院 看護学分野 教授 青石 恵子 委員	熊本県立大学名誉教授 荒木 紀代子 委員	(公財) 熊本県総合保健センター 副理事長 岩谷 典学 副会長	熊本大学大学院 公衆衛生学講座 教授 加藤 貴彦 会長
委員	熊本大学病院循環器内科学 辻田 賢一 委員 荒木 智 委員	熊本県国保・高齢者医療課長 沖 圭一郎 委員	九州看護福祉大学 看護福祉学部副学長 生野 繁子 委員	熊本県健康づくり推進課長 亀丸 明弘 委員	(一財) 化学及血清療法研究所 宮原 徳治 委員
	熊本県国民健康保険団体連合会 福住 正美 委員				全国健康保険協会熊本支部 橋口 尚幸 委員
事務局	(公財) 熊本県総合保健センター				
【臨時委員】					
特定専門家	-	熊本大学大学院 神経精神医学講座 竹林 実 教授	熊本大学大学院 整形外科科学講座 宮本 健史 教授	熊本大学大学院 代謝内科学 荒木 栄一 教授	-
		九州看護福祉大学 精神看護学 上田 智之 准教授			
	熊本大学大学院 歯科口腔外科学講座 中山 秀樹 教授				
保険者 (※参加順)	美里町 南阿蘇村 玉名市 全国健康保険協会熊本支部	-	熊本市 荒尾市	熊本市 合志市 菊池市 荒尾市 阿蘇市 全国健康保険協会熊本支部	熊本市 八代市 菊池市
【オブザーバー】					
関係機関	県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会、県栄養士会				
保険者	市町村、後期高齢者医療広域連合、健康保険組合連合会熊本連合会、各国保組合、共済組合				